



# 増戸小だより

Tel 042-596-0240

Fax 042-595-1022

あきる野市立  
増戸小学校  
No. 10  
令和8年 1月30日

## 命を守る防災教育 繰り返し取り組む避難訓練の大切さ

～ハンカチは、自らの命だけでなく「友達の命」も守るもの～

校長 時計 祐司

学校では、児童自らが火災や地震から自分の命を守ることができるように、避難訓練に取り組んでいます。増戸小学校では、避難訓練とショート訓練に毎月1回ずつ、2月まで取り組みます。6年生は、卒業までに、なんと132回もの訓練を体験することになります。



▲4年生 秋川消防署の方々と煙体験  
わずか3mでも、視界が無く進めません。令和8年1月21日 撮影

1月には、1階の配膳室より火災が発生したことを想定した避難訓練が実施されました。各学校では、市や消防署の指導の下、防火対策を行っているので、実際に校舎が全焼するような大きな火災が起こることは、ほぼありません。

しかし、令和元年に起こった「京都アニメーション放火火災」のように、無差別かつ突発的な事件が起こった場合はどうなるのでしょうか。わずか十数秒の間に大きな火災となり、各教室に火災発生を伝達するまでの時間には、すでに校舎全体が煙で覆われていることになります。

そこで、火災の避難訓練では、必ず児童にハンカチの所持を確認しています。これは、火災による死因のほとんどが、一酸化炭素等の有毒ガスが含まれた煙を吸い込んで意識を失う、または呼吸困難による窒息のためです。煙を吸い込まないために、ハンカチを口に当てて逃げることは、児童ができる最も簡易的で有効な手段となります。ハンカチを所持していない児童がいた場合、その児童が避難途中で気を失う確率が高まります。教師が背負うことができる児童は、1、2名が限度でしょう。では、ハンカチを持っていない児童が3名気絶したら……、きっと、他の子供たちが気を失った子を背負うか、持ち上げて数名でその児童を連れて行きます。では、ハンカチを持っていない子が4名、5名となっていったら……。見捨てるという選択肢がないかぎり、学級全員の命が危険にさらされることは想像に難しくないのではないのでしょうか。

2月の避難訓練をもって、令和7年度に予定されていた全11回の避難訓練が終了します。児童にとって、人生の中で「本番」が起こることがないように祈りつつ、最後まで気を抜かずに訓練に臨めるよう、気を引き締めて指導していきます。保護者の皆様、お子さんのハンカチの所持、よろしくお願いします。